

## 平成 22 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

集団場面の観察を通じた保育支援における作業療法士の役割

学位の種類: 修士 (作業療法学)

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号 09896604

氏名: 佐々木清子

(指導教員名: 三浦香織 )

注: 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1 枚 (A 4 版) に収めること

【はじめに】発達障害者支援法が施行され、各地域で軽度の発達障害を抱えた子どもの早期発見・早期支援の取り組みが進められてきている。しかし、発達障害児と診断されていなくとも気になる行動をしめす子どもたちは、集団場面で気になる行動があっても個別場面では問題に気づかれないため、家族の理解が得られず、評価や支援を進めることが難しい現状がある。そのため、作業療法士 (以下、OT) は、集団場面での観察を通して保育士と共に協力しながら支援を進めていくことが重要と考える。

【目的】保育園における集団場面の観察と保育士への助言を行い、保育士のインタビューと感想文を分析し、OT による支援の役割を検討する。【対象】本研究による作業療法支援を受けた A 区内の保育士 44 名。【方法】支援を受けた保育士 5～10 名に集団インタビューを行い、インタビュー内容と支援後の感想をカード化した。本研究者と 3～4 名の経験 20 年以上の OT で、同一の要素ごとに分類を行い OT の役割について検討を行った。作業療法支援は合計 12 回行った。インタビュー内容は、OT 支援後に役だったこと、取り入れられた助言と改善点について行った。【結果】以下のカテゴリーに分類できた。1) 子どもとの対応に関する保育士への有用な助言、2) 子どもの機能の発達と行動の改善、3) 家庭との連携、4) 周囲の人へよい影響、5) 保育士の意識と意欲へよい影響、6) 助言を上手く取り入れられなかった要因、7) 作業療法支援のポイントであった。子どもとの対応に関する保育士への有用な助言には、①評価や対応に必要な知識、②子どもの行動に対する理解と対応、③子どもへの直接対応、④活動の意義とその提案、⑤部屋環境の調整と道具の工夫、⑥保育運営に関する助言で構成された。【考察】この研究で明らかになった保育士への助言内容には、今後の支援に役立つ作業療法支援の視点が提案された。OT は、集団行動を踏まえた幅広い子どもの支援をするために、子どもの行動の根拠と背景を含めた支援をする。さらに人的環境を考慮し、継続した支援ができるようにする。それらは、専門的で的確な助言であり、具体的でわかりやすく生活に取り入れやすい支援といえる。今後、OT は、よりよい支援をするために、保育士と良好な関係を築けるよう対人スキルを身につけることも求められる。